

(7) 近畿



近畿地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

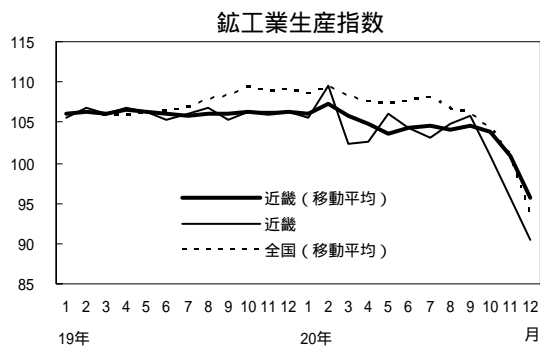
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 11 月)	今回 (平成 21 年 2 月)	
景況判断	弱含み	悪化	
鉱工業生産	やや弱含み	大幅に減少	
個人消費	やや弱含み	緩やかに減少	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	やや悪化しつつある	急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

一般機械は、ボイラ・原動機やフラットパネルディスプレイ製造装置の生産水準は上昇したものの、建設機械、半導体製造装置、自動車向けの軸受け等が不調だったことから、減少している。化学は、有機薬品やプラスチックの生産水準が低下していることから、減少している。食料品・たばこは、飲料が低調だったことから、減少している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池やエアコンの生産が落ち込んだことから、大幅に減少している。鉄鋼は、自動車向け鋼材等で生産水準が急激に低下していることから、大幅に減少している。



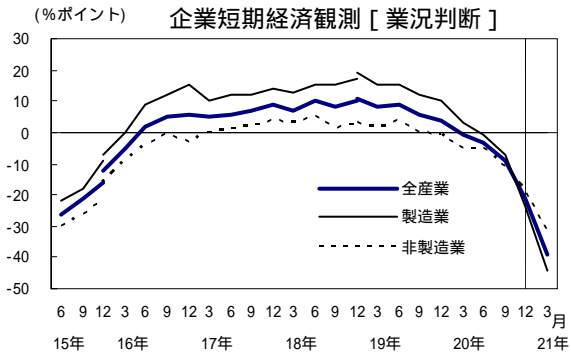
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

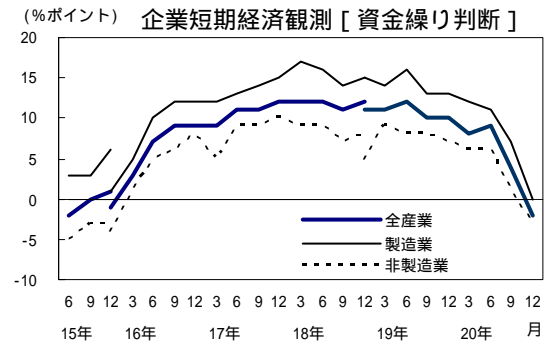
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	17.0	2.2	0.7	5.7	10.6
化学	14.5	4.6	6.6	6.6	2.3
食料品・たばこ	9.1	0.6	1.3	1.7	0.2
電気機械	8.5	8.1	11.4	8.5	14.3
鉄鋼	7.5	1.0	13.5	12.5	8.4
鉱工業	100.0	0.3	8.6	9.5	6.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

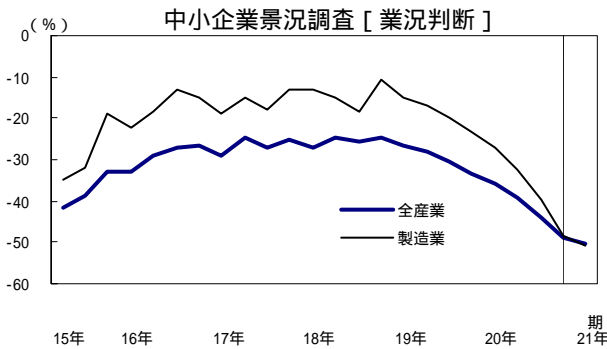
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

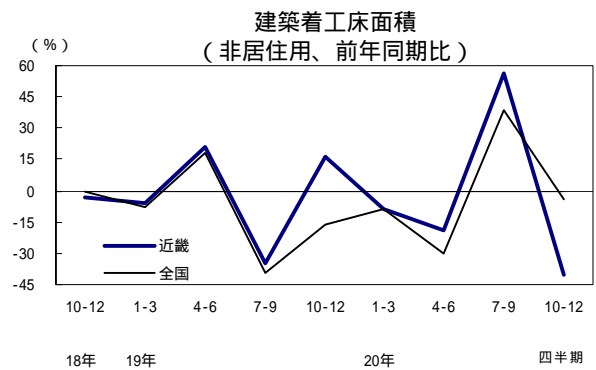
「マンションや建売業者も物件が売れないため、仕入れができなくなっている。さらに、銀行の融資が通らなくなっているため、厳しい状況となっている(不動産業)」など「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	15.3	5.7(3.1)
製造業	12.0	2.1(3.8)
非製造業	19.1	9.6(2.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

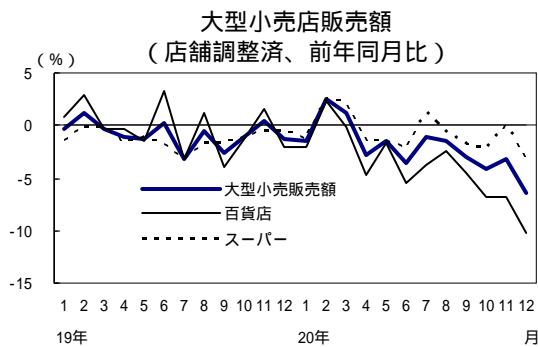
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、生鮮食品が好調だったものの、ジャケットやコートなどの重衣料や、旅行用品・バッグなどの身の回り品が不調だったことから、前年を下回った。11月は、歳暮の早期受注などにより食料品が前年を上回ったものの、気温が平均より高く、コートなどの冬物衣料が不調だったことから、前年を下回った。12月は、クリスマス商戦が振るわず、衣料品及び身の回り品が低調だったことに加え、宝飾・貴金属などの高額商品が不振だったことから、前年を下回った。なお、大阪市内の複数の店舗では、改装・建て替え工事により売場面積が減少している。近畿百貨店協会によると、1月の近畿地区の売上高は、前年同月比で7.3%減となっている。

スーパーは、肉食志向により、飲食料品や調理用品等の家庭用品が好調だったものの、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

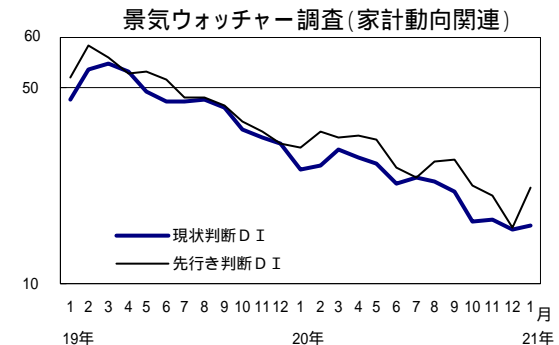
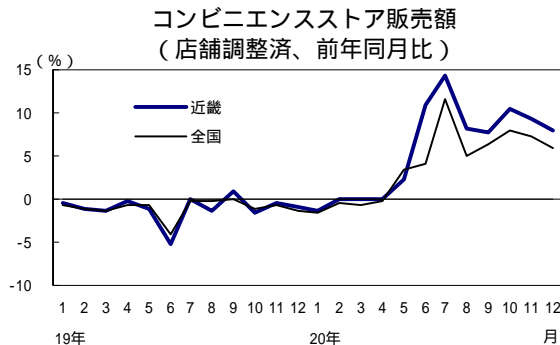
「宿泊部門では、台湾や香港からのキャンセルが相次いでいる。宴会部門でも企業の業績悪化で大型宴会のキャンセルが続いている。レストランでも来客数が1割程度落ち込んでいる(都市型ホテル)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.5	2.7	1.8	4.8
百貨店	0.1	4.0	3.6	8.2
スーパー	1.0	1.7	0.5	2.0
コンビニ	0.5	4.4	10.1	9.2
景気ウォッチャー	34.8	33.4	30.4	22.3

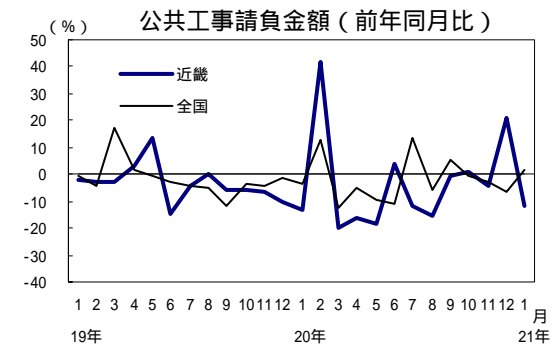
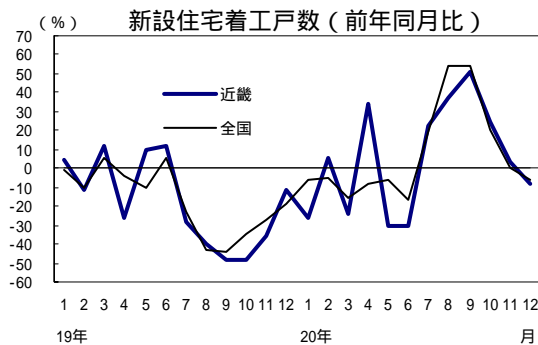
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

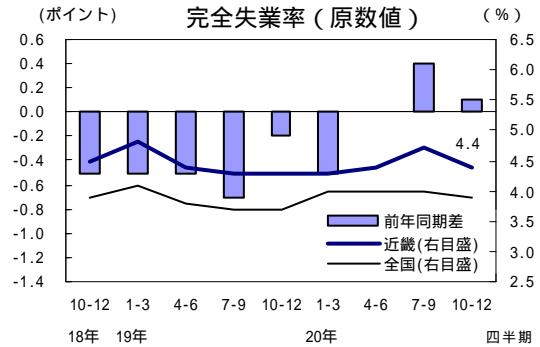
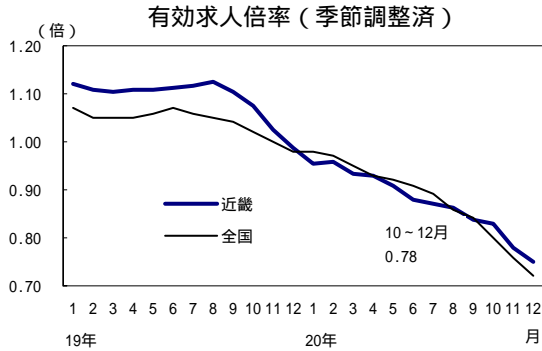


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

「求人数は依然として前年比2けた減となっている。さらに、雇用調整助成金や中小企業緊急雇用安定助成金の問い合わせが増えているなど、雇用調整を進める動きがみられる。一方、事業主都合の離職者が増加するなかで、離職者には外国人労働者が非常に多くなっている（職業安定所）」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数 （前年比）	1,014 10.2	930 5.1	974 8.5	1,008 5.9	348 0.3
負債総額 （前年比）	2,490 11.1	3,007 43.0	2,461 59.1	3,216 28.6	1,225 92.4



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・低燃費車の購入に伴う優遇税制の導入などを見据え、買い控えが進んでいる（乗用車販売店）

<先行き>

・取引先では在庫調整のめどが立っていないため、更に悪くなる（金属製品製造業）

